

日本史探究 第5回 授業の進め方とポイント

【第5回テーマとEQ】

鎌倉時代の政治の特徴を理解しよう

～執権政治の成立と蒙古襲来～

【第5回の解説ポイント】

- ・源頼朝の死後、有力御家人であった北条氏が次第に権力を拡大していった。
- ・源氏の将軍が三代で途絶えた後、政治の実権を朝廷に取り戻そうとした承久の乱が起きるが、それに勝利した鎌倉幕府の支配が全国に広がるようになった。
- ・他の有力御家人を倒すことによって権力を独占した北条氏が代々執権職を独占し、執権政治が確立された。
- ・頼朝以来の先例や武家社会の慣習に基づいた、日本最初の武家法である御成敗式目が成立した。
- ・二度にわたる元軍の襲来によって、御家人は疲弊し幕府への不満が高まるようになった。
- ・『蒙古襲来絵詞』に描かれた戦いの様子や、御家人の苦労について理解する。

初の武家政権として成立した鎌倉幕府は、初代将軍となった源頼朝の死後、有力御家人による合議制の体制がとられたが、その中から北条氏が権力を独占するようになっていった。

そして、源氏の将軍が三代で途絶えた後、承久の乱に勝利することによって幕府の朝廷に対する優位が確立され、その幕府における実権を握った北条氏によって執権政治がおこなわれたことを理解したい。

モンゴル帝国（後の元帝国）の勢力拡大を中心とする東アジアの変化の中で、二度にわたる蒙古襲来を退けた鎌倉幕府であったが、それによって幕府の力は次第に衰えていったことを確認する。

【これまでに出了された留学生からの質問】

・なぜ蒙古襲来は二度にわたっておこなわれたのでしょうか。三度目はなかったのですか？
→一度目の文永の役（1274年）は、元軍の力を見せつける程度で終わったと言われていいます。その後、中国南部の南宋を滅ぼした元はその兵力も吸収して、大軍で二度目の弘安の役（1281年）を実施しました。その後、三度目の攻撃も計画されましたが、元の支配を受け

た国々において反乱が続いたため、実行されることはありませんでした。